



海上保安庁  
令和6年2月8日

## 能登半島沖の海底で約3メートルの隆起を確認

海上保安庁では、1月8日から19日にかけて能登半島北部の海底地形調査を実施しました。今回取得した海底地形と過去の海底地形を比較した結果、能登半島沖の活断層の南側の海底が約3m隆起していることが分かりました。

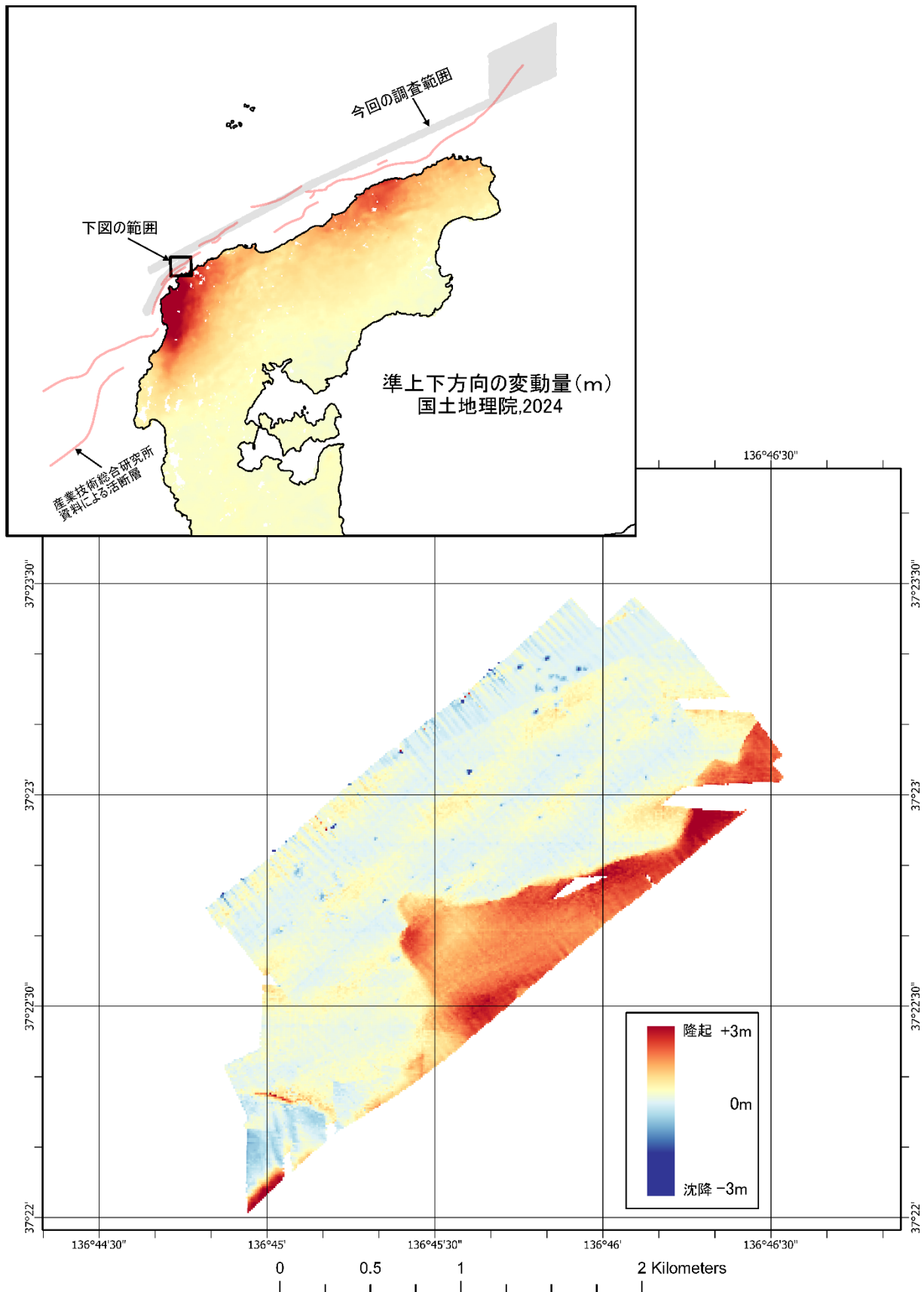
海上保安庁では、1月8日から19日にかけて能登半島北部における地形変化の有無を確認するため、測量船「昭洋」による海底地形調査を実施しました。

今回取得した水深データと平成15年（2003年）に取得した水深データを比較した結果、能登半島北西沖約1kmの海底（水深40mから90m）が、約3m浅くなっていることが明らかになりました。

地震調査委員会によると、能登半島の北側には複数の活断層が存在し、令和6年能登半島地震では、これらの活断層が関連した可能性が高いと評価されています。また、国土地理院によると、令和6年能登半島地震に伴い、輪島市西部で最大約4mの隆起が観測されています。

今回隆起が確認された海底地形の北端は既知の活断層の位置と概ね一致しており、陸域で観測された隆起量と同程度であることから、この海底地形の隆起は令和6年能登半島地震で生じたものと考えられます。

本調査結果は、2月9日に開催される地震調査委員会に報告する予定です。



2003年と今回（2024年）の海底地形の変化量

## 参考1 測量船「昭洋」による海底地形調査について

測量船「昭洋」は、令和6年能登半島地震の発生後、被災地に派遣され、同地震により被害を受けた6つの港湾（輪島港、蛸島漁港、飯田港、小木港、宇出津港、伏木富山港）の水深調査を1月5日から14日にかけて行いました。その後、同地震による地形変化の有無を確認するため、能登半島北側海域や富山湾において海底地形調査を実施しました。

【関連広報】令和6年1月24日 富山湾の海底で斜面崩壊の痕跡を確認

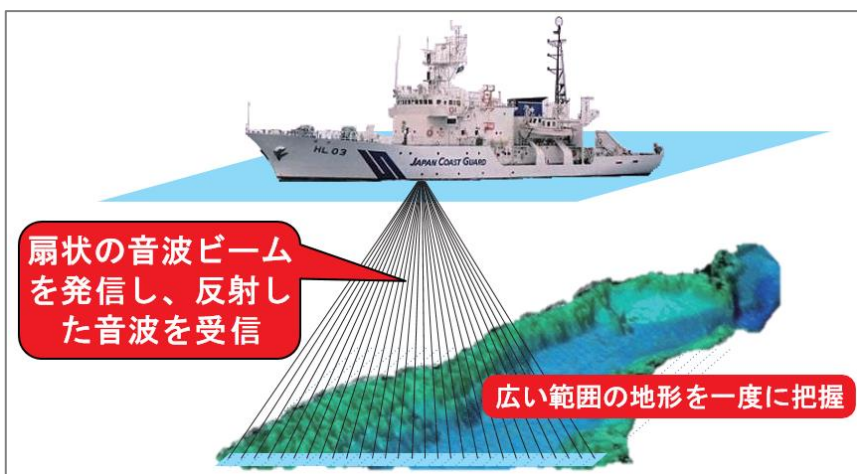
海底地形調査は、測量船「昭洋」に搭載しているマルチビーム測深機を使用して実施しました。マルチビーム測深機は、船底の送受波器から海底に向けて音波を扇形に発射し、反射した音波を受信することで、面的に海底地形を調べることができます。



測量船 昭洋

### 【船体要目】

就役年月	平成10年3月
総トン数	3,000トン
全長	98.0メートル
幅	15.2メートル



マルチビーム測深機について

## 参考2 2003年と今回(2024年)の海底地形の比較

